

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
京都医健専門学校	平成17年3月3日	小林 哲夫	〒604-8203 京都市中京区衣棚町51-2 (電話) 075-257-6507																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 滋慶京都学園	平成17年3月3日	近藤 雅臣	〒604-8203 京都市中京区衣棚町51-2 (電話) 075-257-6507																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
医療	医療専門課程	作業療法科	—	平成25年1月29日 文部科学省告示第2号																							
学科の目的	<p>作業療法科では、医療・福祉分野で即戦力となる専門職の人材育成を目指します。作業療法士の活躍の場は、これまでの病院中心の医療から施設や在宅での地域社会の福祉サービスの選択肢の一つへと広がっています。臨床で求められる知識と技術は多様となり、柔軟な変化と応用力を求められています。学生が目標とする国家資格取得と臨床での活躍を実現するため、基礎医学から作業療法の実践と応用までを段階的に学びます。</p> <p>1年次 基礎分野を中心にヒト・健康・生活・社会について考えます。 2年次 専門基礎分野を中心に疾病・障害について領域ごとに学びます。 3年次 専門分野を中心に作業療法の評価・治療について領域ごとに学びます。 4年次 作業療法の実践を経験する臨床実習と国家試験対策へ準備します。</p> <p>学生・教員がそれぞれの責任と義務を実感し行動することを約束します。 知識と技術が臨床の作業療法へつながるよう、講義と実習の内容を工夫し実践します。 国家試験対策は、知識の整理として一年次より段階的に実施していきます。 教員は学生が卒業・就職・国家試験合格へ努力し、全員が100%目標達成できるようサポートします。</p>																										
認定年月日	平成29年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	3480時間	1590時間	0時間	1935時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	134人	0人	6人	10人	16人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について出席率、授業態度、試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、次項に定める4段階評価とする。 A…100～80点 — 合格 B… 79～70点 — 合格 C… 69～60点 — 合格 D… 59～ 0点 — 不合格																							
長期休み	■夏季:8月4日～9月2日 ■冬季:12月22日～1月6日 ■学年末:3月2日～3月31日		卒業・進級条件	履修すべき科目のうち、履修を認定されない科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者等に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭、スポーツ大会、部活動、ボランティア活動  ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 一般病院、総合病院、診療所、大学病院、研究・教育機関(大学・専門学校)、一般企業 など ■就職指導内容 就職専門の部署であるキャリアセンターを設け、学科・担任と連携して、就職指導を行っている。具体的には学内合同企業説明会を実施、履歴書添削、面接指導等を段階的に行い、希望者全員が就職できるまで、卒業後もサポートしている。 ■卒業生数 29 人 ■就職希望者数 24 人 ■就職者数 24 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82.8 % ■その他  (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士	②	29人	24人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
作業療法士	②	29人	24人																								
中途退学の現状	■中途退学者 21 名 ■中退率 14.5 % 平成29年4月1日時点において、在学者145名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者124名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 経済的問題、学業不振、意欲の低下、進路変更、心身の不調 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無し ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無し ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.kyoto-iken.ac.jp">http://www.kyoto-iken.ac.jp</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実習施設(企業)の選定については、本校の教育目標および教育方針に賛同し、かつ学生の受け入れについて同意の得られた医療機関としています。さらに、臨床実習指導者は臨床経験3年以上の作業療法士とし、1名の臨床実習指導者が学生1名ないし2名を担当する体制をとっています。

また、教育課程編成委員会や講師会等において、業界・団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行っています。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は、理事会のもとに設置され、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっています。また、学校運営においては、教員組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実績的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営します。委員会で提案された意見は、学科会議で具体的な実践方法を検討し、教育課程編成に取り入れられます。作成された教育課程は教務部長・事務局長・学校長の承認を経て実施されます。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 哲夫	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
竹本 雅信	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
生出 貴也	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
樋場 八裕	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
鳥嶋 勝博	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
辻井 智	京都医健専門学校	H30.4.1～H31.3.31	事務局
平山 聡	京都府作業療法士会	H30.4.1～H31.3.31	①
大嶋 孝司	京都リハビリテーション病院	H30.4.1～H31.3.31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年6月29日 19:30～20:30

第2回 平成30年9月21日 19:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

京都、滋賀を中心に近隣府県の業界からの期待が大きい。近年の新卒者は社会人マナーなどが未熟な傾向にあり、養成校に対して知識・技術の教育だけでなく人間教育まで求められる時代となっている。学科のカリキュラムは業界のニーズに対し、学内実習の段階から実践的な内容を取り入れ、国家試験合格はもちろん、即戦力レベルの活躍が出来るように努力している。また、入学当初から日々の学校生活のいかなる場面においても、挨拶を基本にした人間教育を実践している。既卒者の国家試験合格は結果を残した。次は質が問題であり、作業療法の職域が医療だけでなく福祉での活躍が望まれており、どちらの分野でも即戦力となるよう学内教育と臨床実習教育においても内容の見直しをしていく。平成32年度のカリキュラム改訂へ向け、教育方法・実習内容を学科教員とともに臨床実習指導者へ理解・協力頂けるよう研修会準備など検討している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習施設(企業)の選定については、本校の教育目標および教育方針に賛同し、かつ学生の受け入れについて同意の得られた医療機関としています。さらに、臨床実習指導者は臨床経験3年以上の作業療法士とし、1名の臨床実習指導者が学生1名ないし2名を担当する体制をとっています。また、教育課程編成委員会や講師会等において、業界・団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行っています。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携する医療機関での臨床実習を実施。教育課程における位置づけや成績評価基準、意義についても明確にしています。また実施要領・マニュアル等を整備し運用しています。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ (評価実習)	臨床実習を通して、医療人として自覚を持った行動がとれる。 1. 常識的態度や責任のある行動を身に付ける。 2. 対象者及び家族と望ましい人間関係を保つ。 3. 必要に応じて関連職種と連携をとる。 4. 報告すべき必要な事項を選択し、記録する。 5. 報告すべき必要な事項を選択し、報告する。 作業療法の対象者に、基本的な作業療法を体験し実践することができる。 6. 評価計画を立てる。 7. 評価を実施する。 8. 評価結果から全体像をまとめる。 9. 将来像を予測する。 10. 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 11. 長期目標および短期目標を設定する。 12. 治療・指導・援助を計画する。 臨床実習を通して、自己の作業療法士としての自覚を高めることができる。 13. 組織の概要を理解する。 14. 作業療法の過程を理解する。 15. 管理業務の概要を理解する。	京都大学医学部附属病院、京都第一赤十字病院、医仁会武田総合病院、洛西シミズ病院、宇治徳洲会病院、宇治おうばく病院、西大和リハビリテーション病院、愛生会山科病院、松阪市民病院、向日回生病院、大阪回生病院、市立池田病院、北摂総合病院、岡波総合病院、宝塚リハビリテーション病院、貴志川リハビリテーション病院、北出病院、白浜はまゆう病院 他
臨床実習Ⅱ	臨床実習を通して、医療人として自覚を持った行動がとれる。 1. 常識的態度や責任のある行動を身に付ける。 2. 対象者及び家族と望ましい人間関係を保つ。 3. 必要に応じて関連職種と連携をとる。 4. 報告すべき必要な事項を選択し、記録する。 5. 報告すべき必要な事項を選択し、報告する。 作業療法の対象者に、基本的な作業療法を体験し実践することができる。 6. 評価計画を立てる。 7. 評価を実施する。 8. 評価結果から全体像をまとめる。 9. 将来像を予測する。 10. 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 11. 長期目標および短期目標を設定する。 12. 治療・指導・援助を計画する。 13. 準備する。 14. 治療・指導・援助について説明し、了承を得る。 15. 計画に沿った治療・指導・援助を実施する。 16. 実施中の対象者の状況変化に対応する。 17. 再評価計画を立てる。 18. 再評価を実施する。 19. 再評価結果を整理し、対象者の全体像をまとめ直す。 20. 再評価によって作業療法計画を見直す。 臨床実習を通して、自己の作業療法士としての自覚を高めることができる。 21. 組織の概要を理解する。 22. 作業療法の過程を理解する。 23. 管理業務の概要を理解する。	京都府立医科大学附属病院、京都岡本記念病院、京都武田病院、京都中部総合医療センター、琵琶湖中央病院、甲西リハビリ病院、洛西シミズ病院、宇治徳洲会病院、向日回生病院、貴志川リハビリテーション病院、西大和リハビリテーション病院、第一東和会病院、松阪市民病院、紀南こころの医療センター、嶺南こころの病院 他

<p style="text-align: center;">臨床実習Ⅲ</p>	<p>臨床実習を通して、医療人として自覚を持った行動がとれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常識的態度や責任のある行動を身に付ける。</li> <li>2. 対象者及び家族と望ましい人間関係を保つ。</li> <li>3. 必要に応じて関連職種と連携をとる。</li> <li>4. 報告すべき必要な事項を選択し、記録する。</li> <li>5. 報告すべき必要な事項を選択し、報告する。</li> </ol> <p>作業療法の対象者に、基本的な作業療法を体験し実践することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 評価計画を立てる。</li> <li>7. 評価を実施する。</li> <li>8. 評価結果から全体像をまとめる。</li> <li>9. 将来像を予測する。</li> <li>10. 作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。</li> <li>11. 長期目標および短期目標を設定する。</li> <li>12. 治療・指導・援助を計画する。</li> <li>13. 準備する。</li> <li>14. 治療・指導・援助について説明し、了承を得る。</li> <li>15. 計画に沿った治療・指導・援助を実施する。</li> <li>16. 実施中の対象者の状況変化に対応する。</li> <li>17. 再評価計画を立てる。</li> <li>18. 再評価を実施する。</li> <li>19. 再評価結果を整理し、対象者の全体像をまとめ直す。</li> <li>20. 再評価によって作業療法計画を見直す。</li> </ol> <p>臨床実習を通して、自己の作業療法士としての自覚を高めることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>21. 組織の概要を理解する。</li> <li>22. 作業療法の過程を理解する。</li> <li>23. 管理業務の概要を理解する。</li> </ol>	<p>京都南病院、京都岡本記念病院、宇治おうばく病院、宇治徳洲会病院、洛西シミズ病院、脳神経リハビリ北大路病院、医仁会武田総合病院、大阪府済生会茨木病院、耳原総合病院、東舞鶴医誠会病院、近江草津徳洲会病院、彦根中央病院、山の辺病院、聖マリアンナ医科大学病院、神戸労災病院、国保日高総合病院、名古屋掖済会病院 他</p>
--	---	---

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。平成30年度においては、中途退学者防止と国家試験全員合格に向けた「学生一人ひとり」に対する対応案の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心に捉え、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の二つの要素が年間を通じた授業内容に反映されるよう研修を行います。

① キャリア教育の視点、② 一人ひとりを見ていく視点  
 さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議においてこの方針を共有し、授業内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を実施しています。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第52回日本作業療法学会」(連携企業等: 日本作業療法士協会 )  
 期間: 平成30年9月7～9日(金～日) 対象: 作業療法士 等  
 内容: テーマ「根拠に基づいた作業療法の展開」 作業療法士協会が主催する最大規模の学会へ参加。各領域のセミナー・研究発表およびこれからの業界動向についての講演など。平成32年度の大規模なカリキュラム改訂へ向けた準備でもある。

研修名「第38回近畿作業療法学会」(連携企業等: 近畿地区作業療法士会 )  
 期間: 平成30年7月22日(日) 対象: 作業療法士 等  
 内容: テーマ「みえる わかる かわる 伝える 伝わる 作業療法」 近畿地区作業療法士会が主催する学会へ参加。各領域のセミナー・研究発表および業界動向の講演など。今回は、平成32年度の大規模なカリキュラム改訂へ向けた準備でもある。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「国家試験対策研修会」（連携企業等：滋慶教育科学研究所（JESC））  
 期間：平成29年7月22日 対象：国試系学科教員及び学校責任者  
 内容：国家試験合格率の更なる向上に向けて、昨年度の国家試験の結果の振り返り、出題傾向の分析、効果的な国試対策の手法等を研修する。

研修名「教職員カウンセリング研修＜一次研修・二次研修＞」（連携企業等：滋慶教育科学研究所（JESC））  
 期間：平成29年9月28・29日 対象：担任及び学生・保護者とコミュニケーションが必要な方  
 内容：滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。JESC認定教員カウンセラー資格取得を目指す。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第6回京都府作業療法学会」（連携企業等：京都府作業療法士会）  
 期間：平成31年2月17日（日） 対象：作業療法士等  
 内容：京都府を中心に近隣地域で活動・活躍してる作業療法士による業界へ向けたセミナー・研究発表・講演などを実施。臨床で働く作業療法士向け、特に経験が浅い作業療法士へ生涯教育の一貫でもある。

研修名「第45回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」（連携企業等：全国リハビリテーション学校協会、厚生労働省 など）  
 期間：平成30年8月20日（月）～9月8日（土） 対象：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士  
 内容：養成校教員および臨床で活躍する療法士へ向けた、学生指導に必要な知識・技術を講義やグループワークを通して学ぶ。また、業務を分析・報告するために必要な研究方法など生涯教育について学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「国家試験対策研修会」（連携企業等：滋慶教育科学研究所（JESC））  
 期間：平成30年7月28日 対象：国試系学科教員及び学校責任者  
 内容：国家試験合格率の更なる向上に向けて、昨年度の国家試験の結果の振り返り、出題傾向の分析、効果的な国試対策の手法等を研修する。

研修名「教職員カウンセリング研修＜一次研修・二次研修＞」（連携企業等：滋慶教育科学研究所（JESC））  
 期間：平成30年10月30・31日 対象：担任及び学生・保護者とコミュニケーションが必要な方  
 内容：滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す。JESC認定教員カウンセラー資格取得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者ともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に活かすことを方針とします。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 中途退学者の減少の努力を継続するようという評価結果に対して、「ひとり一人を大切に」という視点に立って、「学生相談室」の強化、学習ポートフォリオの継続実施、キャリアサポートアンケートの有効活用等を推進して行きます。複数学科の連携を期待されていることから、理学療法科・作業療法科・言語聴覚科・社会福祉科による「多職種連携ゼミ」を強化し、スポーツ科学科・柔道整復科・鍼灸科・理学療法科による「KISA(京都医健スポーツアカデミー)」を発足させました。また、卒業生へのサポートが重要との評価に対し、WEBを用いた離職者調査を行い、キャリアセンター、教務部が連携し、離職予防・再就職サポートを進めていきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿 平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西村 吉右衛門	学校法人 滋慶京都学園	H30.4.1～H31.3.31	近隣代表
笹 十三代	京都医健専門学校(保護者様 代表)	H30.4.1～H31.3.31	保護者代表
永井 八重子	京都医健専門学校(保護者様 代表)	H30.4.1～H31.3.31	保護者代表
山本 綱義	京都精華学園中学高等学校	H30.4.1～H31.3.31	高校代表
原田 麻史	卒業生代表	H30.4.1～H31.3.31	卒業生代表
長尾 淳彦	公益社団法人 京都府柔道整復師会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
田島 好明	公益社団法人 京都府鍼灸師会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
並河 茂	一般社団法人 京都府理学療法士会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
関 道子	京都府言語聴覚士会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
駒井 潔	滋賀県眼科医会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
平山 聡	京都府作業療法士会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
奥村 優之	ベレガ株式会社	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
村井 伸也	公益財団法人 京都府体育協会	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員
松田 直人	スポーツコミュニケーションKYOTO株式会社	H30.4.1～H31.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: <http://www.kyoto-iken.ac.jp>  
 公表時期: 平成29年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 事業計画の実行方針において、提起された目標を具体化するため、企業などから意見聴取を行い、業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。具体的な事例として、講師会等にて授業科目、内容について検討を重ね、意見を反映させてから、様々な企業との連携を図っています。  
 また、評価実習及び臨床実習においては、実習指導者会議を開催し積極的な意見交換を行い、実習中は実習先に教員が訪問し、学生の実習状況の確認および指導等も行っています。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、建学の理念、学校安全関連、保健対策
(2) 各学科等の教育	文部科学省、定員、在籍生数、卒業生数、カリキュラム(教科課程表)、手帳、ブック、卒業、進級判定基準、卒業と同時に取得する称号、資格合格実績、主な就
(3) 教職員	教職員数、学校組織図、教員の実績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育のコンセプト、キャリア教育マップ、就職の指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	設備紹介、海外実学研修、課外活動
(6) 学生の生活支援	中途退学防止への取り組み/進路変更委員会・SSC、健康管理
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、奨学金・教育ローン案内等
(8) 学校の財務	財務資料
(9) 学校評価	学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: [URL:http://www.kyoto-iken.ac.jp](http://www.kyoto-iken.ac.jp)

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医学概論 Introduction to Medicine	医学とは何か、歴史や近年の動向について学びます。	1後	30	2	○			○			○	
○			社会経済学 Social Economics	社会の時事と医療・福祉の動向や診療報酬などについて学びます。	1前	15	1	○			○		○		
○			社会福祉学 Study of Social Welfare	社会福祉に関連する制度・法律や動向などを学びます。	1前	15	1	○			○			○	
○			情報科学 I Information Sciences I	コンピュータの基本操作を学びます。	1後	30	1				○	○			○
○			情報科学 II Information Sciences II	Word、Excelを中心にレポート作成できるよう実践を学びます。	1後	30	1				○	○			○
○			人間発達学 Human Development	ヒトの心身のはたらきを成長過程の特徴に注目して学びます。	1前	15	1	○			○				○
○			老年学 Gerontology	老いとは何か、高齢者に多く見られる特徴や疾患について学びます。	1前	15	1	○			○				○
○			心理学 Psychology	心理学の基本を学び、心理テストなどを通してヒトへの関心や理解を深めます。	1前	30	2	○			○				○
○			医療用語 I Medical Term I	医療・福祉で用いられる専門用語および医療英語について学びます。	1後	30	2	○			○				○



○		医療用語Ⅱ Medical TermⅡ	医療・福祉で用いられる専門用語および医療英語について学びます。	2 前	30	2	○			○		○	
○		日常生活活動学 Activities of Daily Living	日常生活の基本となる動作や身辺活動などの特徴を学びます。	1 前	30	2	○			○		○	
○		介護技術論 Techniques of Nursing Care	介護の理念および基本技術を学び、ヒトとヒトの関係を力学的な視点で考えます。	1 後	15	1	○			○		○	
○		解剖学Ⅰ AnatomyⅠ	人体の構造を筋骨格系・神経系・感覚器系・内臓器系などから学びます。	1 前	30	2	○			○		○	
○		解剖学Ⅱ AnatomyⅡ	人体の構造を筋骨格系・神経系・感覚器系・内臓器系などから学びます。	1 後	30	2	○			○		○	
○		生理学Ⅰ PhysiologyⅠ	人体の機能を筋・神経・呼吸器・循環器・消化器などから学びます。	1 前	30	2	○			○		○	
○		生理学Ⅱ PhysiologyⅡ	人体の機能を筋・神経・呼吸器・循環器・消化器などから学びます。	1 後	30	2	○			○		○	
○		運動学Ⅰ KinesiologyⅠ	人体の関節の構造・筋の働きについて学びます。また、基本動作の分析を理解します。	1 後	60	4	○			○		○	
○		運動学Ⅱ KinesiologyⅡ	人体の関節の構造・筋の働きについて学びます。また、基本動作の分析を理解します。	2 前	60	4	○			○		○	
○		内科学 Internal Medicine	内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。	2 後	30	2	○			○		○	
○		神経内科学 Neurology	神経内科的疾患の病態・診断・治療について学びます。	2 前	30	2	○			○		○	

○		整形外科学 Orthopedics	整形外科的疾患の病態・診断・治療について学びます。	2 前	30	2	○					○			○
○		小児科学 Pediatrics	小児疾患の病態・診断・治療について学びます。	2 後	30	2	○					○			○
○		精神医学 Psychiatry	精神疾患の病態・診断・治療について学びます。	2 前	30	2	○					○			○
○		総合医療論Ⅰ General Medicine I	生活習慣病など現代社会に注目されている疾患の対応について療法士や専門職の視点から学びます。	2 前	30	2	○					○			○
○		総合医療論Ⅱ General Medicine II	慢性期疾患など長期的な関わりを必要とする患者への対応を療法士や専門職の視点から学びます。	2 前	30	2	○					○			○
○		総合医療論Ⅲ General Medicine III	疾患別にリハビリテーションの新旧を療法士や専門職の視点から学びます。	2 後	30	2	○					○			○
○		リハビリテー ション概論 Introduction to Rehabilitation	リハビリテーションとは何か、歴史や近年の動向について学びます。	2 後	30	2	○					○			○
○		病理学 Pathology	疾病を細胞・組織の形態学的な病変レベルで学びます。	2 後	15	1	○					○			○
○		薬理学 Pharmacology	薬剤の基礎を学び、代表的な疾患に用いられるものについて整理します。	2 後	15	1	○					○			○
○		福祉用具学 Social Welfare Equipments	福祉用具および機器について学び、装具の使用やスプリントの作成などを体験します。	2 通年	90	3						○	○		○
○		チーム医療論Ⅰ Interprofession al Care I	リハビリテーション・チームとして関わる専門職の役割について学びます。	1 後	30	2	○					○			○



○		作業治療学④ Treatment Methodology④	リウマチ等炎症性疾患の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○	○		
○		作業治療学⑤ Treatment Methodology⑤	末梢神経損傷の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○	○		
○		作業治療学⑥ Treatment Methodology⑥	ハンドセラピー及び切断の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	2 前	15	1	○			○	○		
○		作業治療学⑦ Treatment Methodology⑦	パーキンソン病の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○	○		
○		作業治療学⑧ Treatment Methodology⑧	難病の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○	○		
○		作業治療学⑨ Treatment Methodology⑨	呼吸器疾患の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑩ Treatment Methodology⑩	老年期疾患の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	30	2	○			○	○		
○		作業治療学⑪ Treatment Methodology⑪	脳性麻痺の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	30	2	○			○		○	
○		作業治療学⑫ Treatment Methodology⑫	筋ジストロフィーの特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑬ Treatment Methodology⑬	知的発達障害の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑭ Treatment Methodology⑭	重症心身障害児の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	15	1	○			○		○	

○		作業治療学⑮ Treatment Methodology⑮	統合失調症の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	2 後	30	2	○			○		○	
○		作業治療学⑯ Treatment Methodology⑯	躁うつ病の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 前	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑰ Treatment Methodology⑰	神経症などの特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑱ Treatment Methodology⑱	摂食・嚥下障害の特徴、評価、治療について学び、症例検討や実技実習などを経験します。	3 後	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑲ Treatment Methodology⑲	義肢及び装具などを中心とした福祉用具の特徴を学びます。	3 後	15	1	○			○		○	
○		作業治療学⑳ Treatment Methodology㉔	職業復帰へ必要な情報と評価及び支援の方法を学びます。	3 後	15	1	○			○		○	
○		地域作業療法学 I Community based Rehabilitation and OT I	保健・医療・福祉の概念や関連法規を知り、地域での活動や生活環境などについて学びます。	3 前	30	2	○			○		○	
○		地域作業療法学 II Community - based Rehabilitation and OT II	主に介護保険の施設や訪問の活動について学びます。	3 後	30	2	○			○		○	
○		臨床実習 I Clinical Practice I	臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価などを経験します。	3 後	270	6				○		○	○
○		臨床実習 II Clinical Practice II	臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。	4 前	360	8				○		○	○
○		臨床実習 III Clinical Practice III	臨床実習施設・指導者の下、実際の作業療法の評価・治療などを経験します。	4 前	360	8				○		○	○

○		見学実習 Field Work	作業療法の活動を社会活動または臨床実習施設の見学から経験します。	1 後	45	1			○	○	○		
○		ビジネスマナー I Business Manners I	社会人に要求される態度や思考などについて学びます。	1 前	30	1	○		○	○			
○		ビジネスマナー II Business Manners II	社会人に要求される態度や思考などについて学びます。	1 後	30	1	○		○	○			
○		文章表現 I Sentence Expression Study I	葉書、手紙、挨拶・礼状の書き方、一般的な文章の書き方などを学びます。	1 前	30	1			○	○		○	
○		文章表現 II Sentence Expression Study II	報告書やレポート作成に求められる 文章表現を学びます。	1 前	30	1			○	○		○	
○		福祉住環境論 Welfare Living Environment Theory	福祉住環境の制度および各種サービスや機器について学びます。	2 前	30	2	○		○	○			
○		作業分析実習 Practice of Occupational Analysis	臨床をイメージした作業活動の分析を実技実習を通して経験します。	2 後	30	1			○	○		○	
○		レクリエーション I Recreation I	主に身体活動を用いたレクリエーションを経験します。	1 前	30	1			○	○		○	
○		レクリエーション II Recreation II	主に高次脳機能を用いたレクリエーションを経験します。	1 後	30	1			○	○		○	
○		レクリエーション III Recreation III	主に精神活動を用いたレクリエーションを経験します。	2 前	30	1			○	○		○	
○		レクリエーション IV Recreation IV	主に軽作業を用いたレクリエーションを経験します。	3 前	30	1			○	○		○	

○		活動分析実習 I Assessment of Occupational Performance I	臨床をイメージした動作の評価および分析を実技実習を通して経験します。	3前	30	1				○	○		○		
○		活動分析実習 II Assessment of Occupational Performance II	臨床をイメージした動作の評価および分析から治療場面への応用へ実技実習を通して経験します。	3後	30	1				○	○		○		
○		作業療法研究法 I Research of OT I	研究の意義や必要性、レポート作成や症例報告および研究発表の方法を学びます。	3後	30	1				○	○		○		
○		作業療法研究法 II Research of OT II	研究の意義や必要性、レポート作成や症例報告および研究発表の方法を学びます。また、卒業研究を経験します。	4後	30	1				○	○		○		
	○	※海外実学研修 Overseas Study Tour	グローバルな考え方を身に付けるとともに、海外の提携校で研修を行い、知識や経験を深めます。	2後	45	1				○	○		○		
	○	※作業療法演習 Seminar on OT	アクティビティを用いて、作業療法とは何か考え知識を深めます。	2後	45	1				○	○		○		
○		作業療法総合演習 I Comprehensive Practice of OT I	総論講義に基づき、斜視・弱視に関する系統的検査方法を検査機器の操作を通して実践的に学びます。	1後	30	2	○				○			○	
○		作業療法総合演習 II Comprehensive Practice of OT II	各論講義に基づき、斜視・弱視の検査および治療（固視検査、眼位検査、立体視検査、大型弱視鏡検査、視能矯正訓練等）について実践を通して学びます。また、臨地実習で学んだことをまとめ発表し、プレゼンテーションの技術を学びます。	2後	30	2	○				○			○	
○		作業療法総合演習 III Comprehensive Practice of OT III	国家試験の出題傾向を基に、各単元の総復習を行い、合格に向けて実力向上をはかります。	3前	30	2	○				○				○
○		作業療法総合演習 IV Comprehensive Practice of OT IV	臨床における事象を客観的な視点から捉え、解決方法を組み立て、実験を通して検証する課程を学びます。3年間で学んだ理論と技術を総復習します。	4後	60	4	○				○			○	
合計					85科目		3480単位時間(157単位)								